

周産期の過密

周産期の管理のなかで、栄養管理と同様に重要なのが“適切なスペース”です。

「過密」は周産期の乳牛にとって“毒”を食べさせるよりも害があります。

ではどれくらいが「過密」というのでしょうか？

2列ベッドのフリーストールならベッド数に対して70%以下の頭数で、3列ベッドなら50%以下が周産期の牛にとっては適正です。

搾乳牛ではベッド数に対して100%で飼養するのはごく当然ですが、周産期の乳牛にとっては“過密”です。

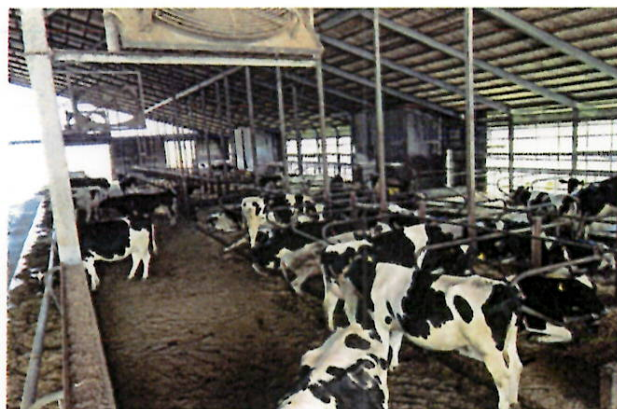
なぜ周産期にはこんなにスペースが必要なのでしょうか？

周産期の乳牛はたった2ヶ月ほどのあいだに、泌乳後期⇒乾乳前期⇒乾乳後期⇒フレッシュと、目まぐるしくグループが変わります。

そしてその都度グループメンバーとの闘争行動によるランキング決めが起こり、採食行動と休息行動が非常に不安定になるからです。

更にはこの短期間に牛の栄養要求と飼料も目まぐるしく変化します。

生理的にも採食量が低下しやすいこの時期に、不安定な採食行動と休息行動をおこさせてしまうことで、採食量の低下はさらに加速してしまいます。



飼養密度100%の乾乳後期ペン
一見平和そうに見えるが、この農場の周産期疾病のリスクは決して低くない

周産期の過密と健康

周産期の過密は採食量の低下をひきおこし、**栄養不足 ⇒ 脂肪動員 ⇒ 肝臓からの炎症性サイトカイン放出 ⇒ 脳への直接刺激による更なる食欲低下 ⇒ 栄養不足・・・**という負の連鎖が始まり、容易に周産期疾病を引き起こします。

この負の連鎖によって私たちがもっとも目にすることができるのは「後産停滞や子宮炎」のようです。

牛の社会性と周産期疾病の研究をしたいくつかの論文でとても興味深いことが書かれています。

それは「群内の弱い牛だけではなく、強い牛も周産期疾病、とりわけ後産停滞になり易い」というものです (Patbandha, 2012 Luchterhand, 2014)。

つまり、周産期の過密は強い牛も弱い牛も両方悪影響があり、両者に共通するのは乾物摂取量の低下と採食行動の変化、弱い牛は餌場から追い出されゆっくり食べられない、強い牛は弱い牛を追い回したり餌場から追い出すのに忙しい、あるいは食べ過ぎてエネルギー過剰になり、結果として後産停滞や子宮炎が増加した、というものです。

周産期に必要なスペース

乾乳牛舎やフレッシュペンを新しく作る場合、計算によってでてくる平均的な乾乳牛頭数やフレッシュ

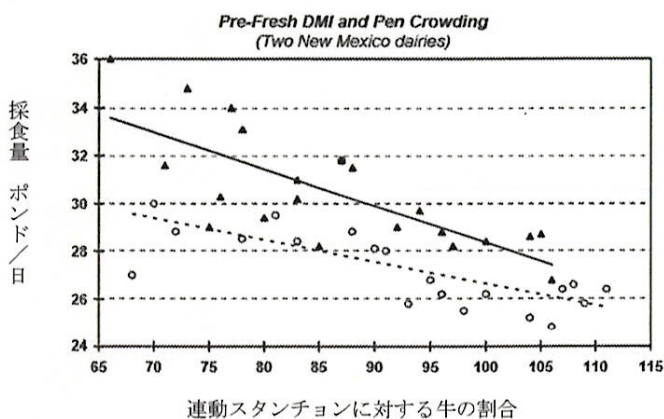


図1 乾乳後期のペンの飼養密度と採食量
飼養密度が70%から100%に近づくにつれて
どんどん採食量が低下していくことが分かる

牛の頭数にピッタリの牛舎を作ってはいけません。分娩の多い月少ない月があるせいでかならず過密になるタイミングができてしまい、分娩の多い月には周産期疾病が多発することになります。分娩の波に対応するには平均滞在頭数の140~150%増しくらいの広いスペースが必要です。

もしそのスペースが確保できないなら、

- ・ 乾乳期間を短縮して乾乳頭数を減らす
- ・ 乾乳後期に十分なスペースを確保するために乾乳前期などにしわ寄せする
- ・ もし分娩がかたまる時期がいつも一緒なら、根本的な繁殖管理を見直す

などの対策が必要になってきます。

最近、乾乳牛舎をコンポストバーン（おが屑などを大量に入れたフリーバーンを毎日~数日おきに攪拌し発酵させる牛舎）にし、安楽性とスペースを確保し良い結果を出している農場がいくつかあります。



佐竹直紀

5年前に80万km走った往診車のランクル70を事故で廃車にしてしまっ以来、反省と喪に服す意味で牛柄に塗っていない往診車に乗っていましたが、このたび喪が明け、ふたたび牛柄の往診車に乗ることが許されました！

それも・・・事故った当時と同じランクル70♥この車はもう新車では販売されていない車なのですがマニアには根強い人気があり、いまだに中古での取引が行われています。

わたしが今回手に入れたのは、20年前に製造され15万km走行しているものです。

新車で買えば300万円前後のランクル70、さて、私はおいくらで購入したでしょうか???

答えは・・・1枚目の右上にあります！



今度こそ大切に乘ります♥♥♥